

## 高齢者用紙おむつの衣服内気候

新潟医療福祉大学 医療技術学部 貝淵正人  
金沢大学 医学部 柴田克之

## 【はじめに】

腹部をゴムひもで加圧することにより、自律神経活動に影響を及ぼし、交感神経活動と副交感神経活動のバランスを崩し、ストレス状態に移行することは知られている。また、パンツ型おむつにおいて、座位ではウエスト部及び鼠径部の衣服圧が高くなり、高い衣服圧は自律神経活動に影響を及ぼすと考えられている。

本研究は、高齢者用紙おむつによるウエスト部、鼠径部、腹部の衣服圧に着目し、日常着用している紙おむつと改良を加えた紙おむつについて、紙おむつのみの場合と、紙おむつ+ズボンの場合の衣服内気候を測定した。

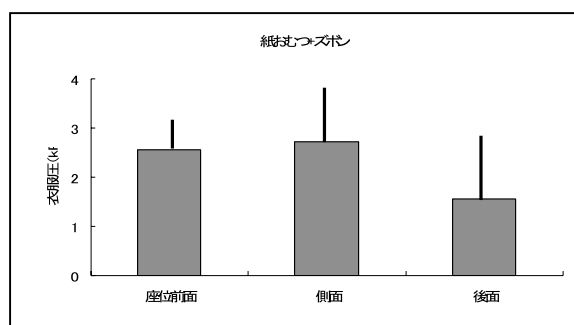
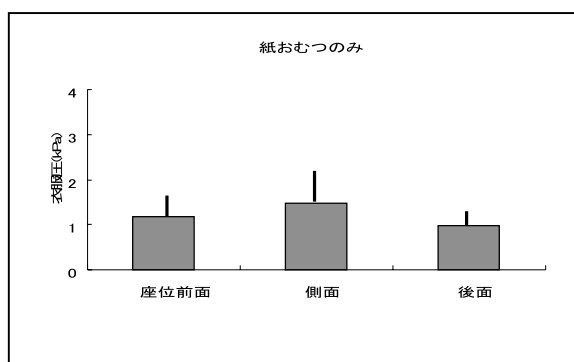
## 【方法】

(株)佐藤商事製デジタル温湿度・露点計とモルテン製体圧測定器にて、日常着用している紙おむつのみと、紙おむつ+ズボン着用時の立位、座位でのウエスト部、鼠径部、腹部の前面、側面、後面を測定した。さらに、実験用(改良前、改良後)の紙おむつのみ着用時と紙おむつ+ズボン着用時においても同様の測定をおこなった。

## 【結果】

## (1) 重ねによる紙おむつの衣服圧

日常着用しているパンツ型紙おむつと紙おむつ+ズボンの場合を比較する。紙おむつのみの場合は、前面、側面、後面は1 kPa 前後であるのに対し、紙おむつ+ズボンでは2 kPa 前後と高い衣服圧であることが明らかとなった。また、どの体位、部位においても紙おむつ+ズボンの衣服圧が高くなった。



## (2) 改良の有無による紙おむつの衣服圧

また、市販の紙おむつのウエスト部に改良を施したものと改良前のものの紙おむつ+ズボンの衣服圧を比較する。

特に前面、後面において改良を加えることによって衣服圧が大きく低下していることがわかった。また、他の体位及び部位でも改良前に比べ、衣服圧が低下することが明らかとなった。

## 【考察】

紙おむつを履き、そしてズボンを履くことは、自律神経運動にストレスとなるのであるが、今回の結果は、我々、医療従事者はとすると、リハ目標をこのストレスとなることを目標としている場合もあると思われる。その場合には、ズボンをワンサイズ大きめのサイズに設定する方法論か、もしくは、紙おむつ自体の形体を変容させるのもひとつの方法論として確立する可能性が示唆された。

今後は、それでは、どのような改良したオムツが、高齢者にとって、楽で、安全で、快適なオムツとなるのであろうか、さまざまな指標を用いて検証したい。

## 【文献】

- 1) 大野洋美：パンツ型オムツはき上げ動作が高齢者の姿勢制御に及ぼす影響. 日本老年医学雑誌 45:627-633, 2008.
- 2) 浜田きよ子：おむつの上手な選び方と種類. コミュニティケア 11: 54-59, 2009.
- 3) 神行逸寛：ズボンのウエストゴムが自律神経活動に及ぼす影響. 鳥取大学教育学部卒業論文 19: 13-15, 2005.
- 4) 松永美輝恵：おむつ装着排尿体験時の血圧と心理状態の関連に関する検討. 新見公立短期大学紀要 29:205-210, 2008.